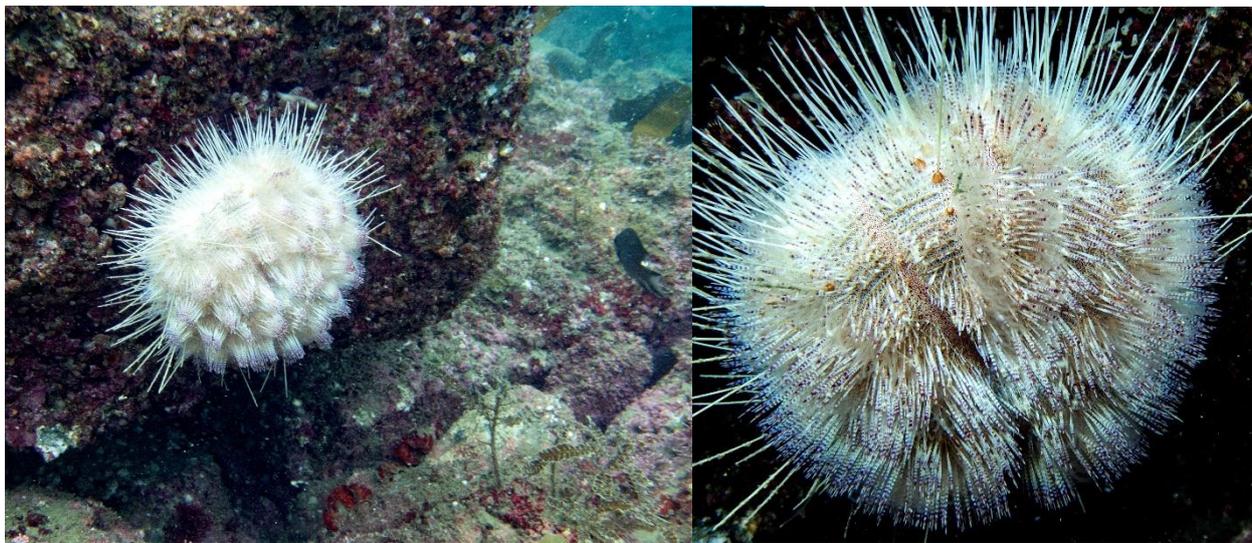


愛媛県瀬戸内海沿岸で確認されたイイジマフクロウニ

清水孝昭¹・高木基裕²¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター² 愛媛大学南予水産研究センター写真1 *Asthenosoma ijimai* イイジマフクロウニ (左: 観察時の状況, 右: 反口側拡大写真)

種の記録

Echinothuriidae フクロウニ科

Asthenosoma ijimai Yoshiwara, 1897

イイジマフクロウニ (写真 1)

標本 観察年月日: 2024 年 11 月 12 日, 確認場所: 西宇和郡伊方町鳥津沿岸 水深約 5m. 1 個体, 殻径約 12cm.

種の特徴

観察された個体は殻径が 10cm 以上と大きく, 口側に細く長い棘, 反口側に太く短い棘が密生すること, 反口側の棘は束状に纏まっており, 各棘に白色と暗赤紫色の明瞭な縞模様があること, 口側の棘は白色で縞模様は見られないことなどの特徴と, 確認された水深を考慮し, 本種と同定した.

備考

本種が含まれるイイジマフクロウニ属は世界中で 6 種が知られ, 日本沿岸からは本種とミナミフクロウニ *Asthenosoma varium* Grube, 1868, リュウキュウフクロウニ *Asthenosoma* sp. の 3 種が知られる (幸塚・園山, 2020). 本種は国内では相模湾から九州南端および小笠原諸島の水深 8m から 300m までの岩礁域, サング礁域に生息するが, 近年日本海側の山口県と島根県からも記録されている (幸塚・永田, 2008; 田中ほか, 2019; 幸塚・園山, 2020). 愛媛県および瀬戸内海周辺における

ウニ類の記録は限定的であるが (たとえば稲葉編, 1983), 少なくとも愛媛県瀬戸内海域からの記録は見当たらず, 本報告が生態写真を伴う初記録となる.

謝辞

本種の同定に際し, 有益なご助言をいただいた森 敦史氏に感謝の意を表す.

引用文献

- 稲葉明彦. 1988. 増補改訂 瀬戸内海の生物相 II. 広島大学理学部付属向島臨海実験場, 広島. 476pp.
- 幸塚久典・永田宜裕. 2008. 島根県隠岐諸島浅海における日本海側から記録されたイイジマフクロウニ (棘皮動物門, ウニ綱). 日本生物地理学会報, 63: 223-226.
- 幸塚久典・園山貴之. 2020. 山口県日本海沿岸で得られたイイジマフクロウニ (棘皮動物門, ウニ綱, フクロウニ目) の記録. 日本生物地理学会報, 75: 101-104.
- 田中 颯・大作晃一・幸塚久典. 2019. ウニハンドブック. 文一出版, 東京. 128pp.

(2024 年 12 月 11 日受付, 2024 年 12 月 12 日公開)

連絡先: 清水孝昭 (e-mail: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp)

(Takaaki Shimizu and Motohiro Takagi. 2024. New record of *Asthenosoma ijimai* (Echinothuriidae) from Seto Inland Sea, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 24017)